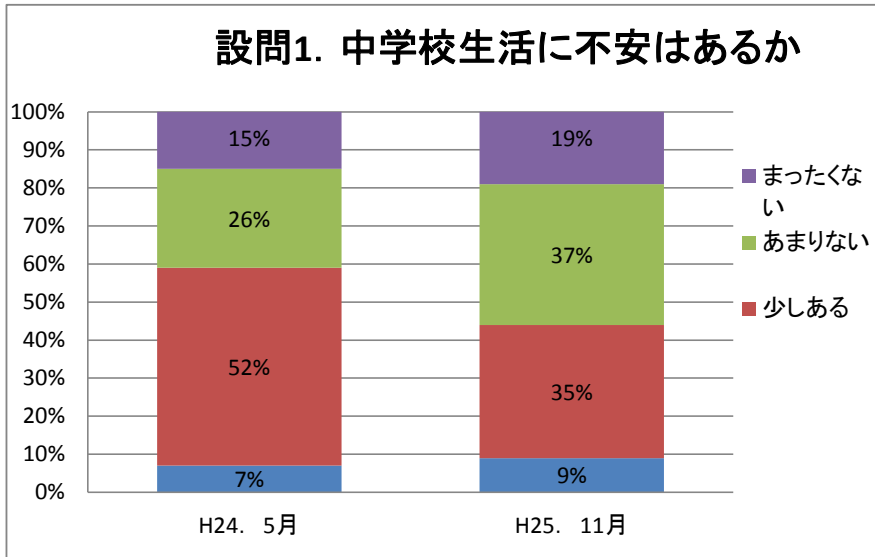


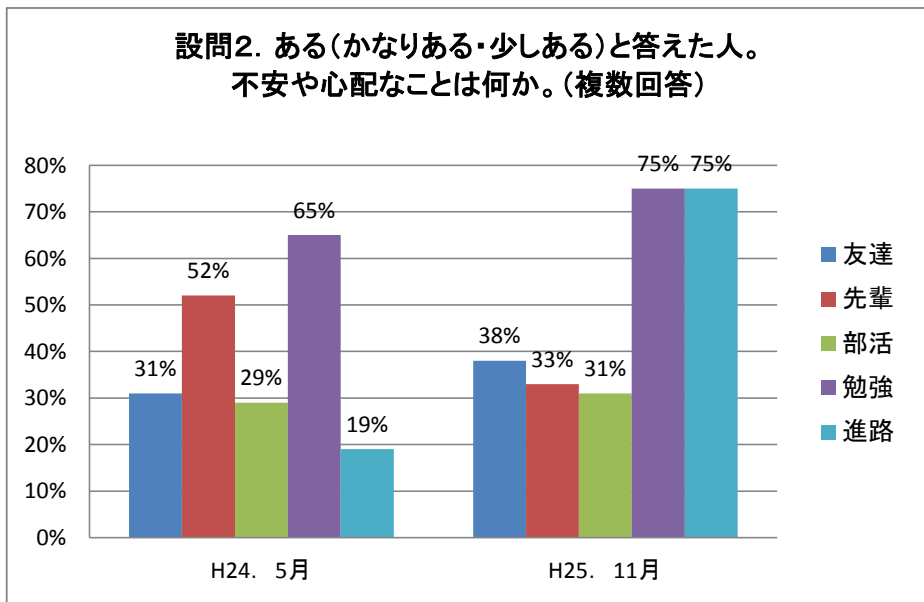
児童生徒アンケート対象 (H24年度時6年生、H25年度時中学1年生)

		かなりある	少しある	あまりない	まったくない
設問1, 中学校生活に不安はあるか。	H24. 5月	7%	52%	26%	15%
	H25. 11月	9%	35%	37%	19%



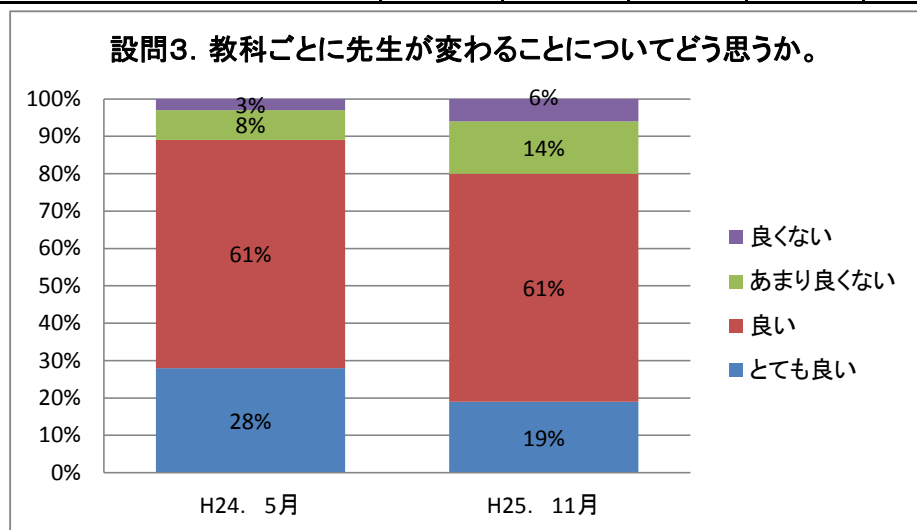
平成24年度に小学6年生であった児童の5月時点のアンケートと今年度中学1年生の11月時点のアンケートを比較した。小6の5月時点では、小中一貫教育の取組がまだ始まっていない。そのためか中学校生活に対する不安が、かなりある7%少しある52%計59%と高くなっている。しかし、中1の11月現在では、かなりある9%少しある35%計43%と大幅に減少した。このことから、小中一貫の取組を行うことが中1ギャップの解消への足がかりになっていることがうかがわれる。

		友達	先輩	部活	勉強	進路
設問2, ある(かなりある・少しある)と答えた人。不安や心配なことは何か。	H24. 5月	31%	52%	29%	65%	19%
	H25. 11月	38%	33%	31%	75%	75%



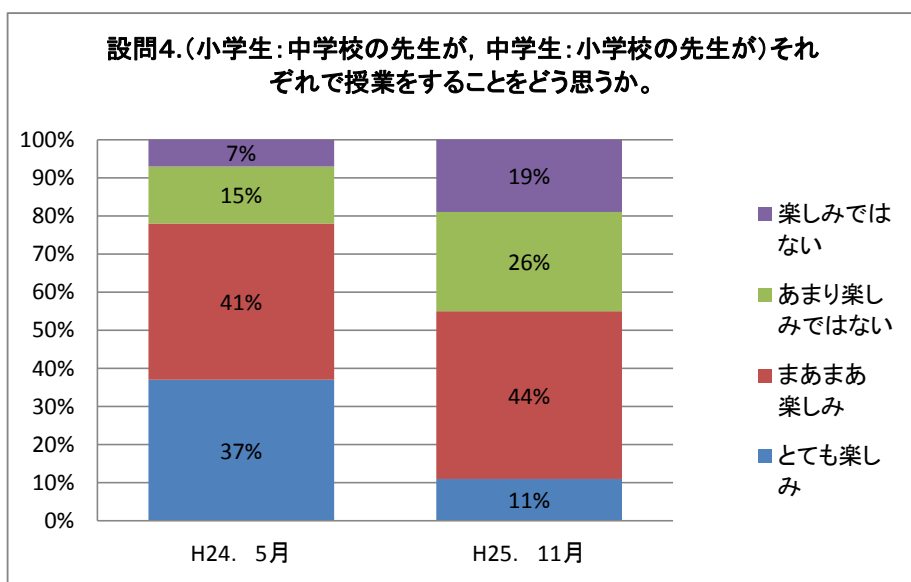
小6時点では、進路に関してはあまり現実的な課題ではないのか不安感が少なくなっているが、中学に上がると進路が大きな関心事となり不安も多くなっているのがうかがわれる。また、勉強に関しては、小6で65%、中1で75%とどちらも高くなっている。教師としては、学習指導に対する取組をしっかりとすることが必要であろう。

		とても良い	良い	あまり良くない	良くない
設問3、教科ごとに先生が変わることについてどう思うか。	H24. 5月	28%	61%	8%	3%
	H25. 11月	19%	61%	14%	6%



現在、小学校高学年においても一部教科担任制を実施している。中学校では、とてもよいが19%と小学校に比べ多少数値が落ちているが、全体的にはおおむね 80% よいと感じている。

		とても楽しみ	まあまあ楽しみ	あまり楽しみではない	楽しみではない
設問4 (小学生:中学校の先生が, 中学生:小学校の先生が)それぞれで授業をすることをどう思うか。	H24. 5月	37%	41%	15%	7%
	H25. 11月	11%	44%	26%	19%



小学校の児童は、とても楽しみ37%、まあまあ楽しみ41%計78%とおおむね中学校の先生が授業してくれることに対する期待が感じられる。小学校の先生が中学校で授業することに対しては、とても楽しみ11%、まあまあ楽しみ44%計55%と、過半数の生徒が肯定的に捉えている。T2として異校種の先生が授業に参加することで「質問がいっぱいできた」「小学校の先生から声をかけてもらいうれしかった」など、児童生徒の授業に対する安心感につながっていると考える。

小中の先生がお互いの授業に参加できる体制が整えば、児童生徒の授業に対する安心感が増すばかりでなく、教材研究の深まりや指導技術の向上にもつながり、小学校教師が中学校で、中学校教師が小学校で授業する必要性もさらに出てくると考える。